

正保城絵図の最終提出年に関する考察

油 浅 耕 三*

(平成11年10月29日 受理)

The considerations on the Last Present Year of the “Shoho Shiro Ezu” (the Maps of Castle and Castle Tawn Compiled by the Order of the Tokugawa Shogunate, 1644)

Kouzou YUASA*

This study deals with the compiled process of the “Shoho Shiro Ezu”. In this paper, the author described about the last present year of the compiled the “Shoho Shiro Ezu”, from the side on the contents wrote in the “Shoho Shiro Ezu”, on the records of the compiled the “Shoho Shiro Ezu” by the “feudal lord” called “Daimyou” and on the records (especially, a new history material) of the “Shoho Shiro Ezu” of the Tokugawas.

As the results of this considerations, the author concluded the second year of Meireki(1656), in the last present year of the compiled “Shoho Shiro Ezu”.

Keywords : Shiro Ezu (castle map), Shoho ages, Shoho Shiro Ezu, the Tokugawa Shogunate, Iemitsu Tokugawa, Chikugo-no-kami Inoue, Morishige Kondo, Momijiyama Bunko (the Tokugawa Shogunate library, in the Edo castle)

1. 緒 言

徳川家光は、正保元年（1644）全国の大名に、国絵図と城絵図の提出を命じた。この時調製された「正保城絵図」（以下、城絵図と省略する）は、江戸城の紅葉山文庫に納められた。城絵図は160枚程度が調製提出されたと考えられるが、その後、散逸したものや御文庫より流出¹⁾したものがああり、現在は63枚が国立公文書館に伝えられている。本稿は、従来、定かでないこの城絵図の最終提出年について考察するものである。

2. 城絵図の記入内容

城絵図は、流出（Fig.1 参照）以外にも、城絵図を調製した各藩に控絵図や下絵図など

* 建築学科 教授

が伝えられており、全体としては、70数枚が確認できる。この城絵図に書き込まれている内容をもとに考察を進めたい。

城絵図にみられる最も年代が下るものとして、桑名の「承応三年六月廿三日（外題）」がある。この承応3年（1654）以降も、藩主の可能性をもつ城絵図について整理したのが「Table 1」である（但し、提出年が定かな城絵図を除く）。最も年代の下るものと

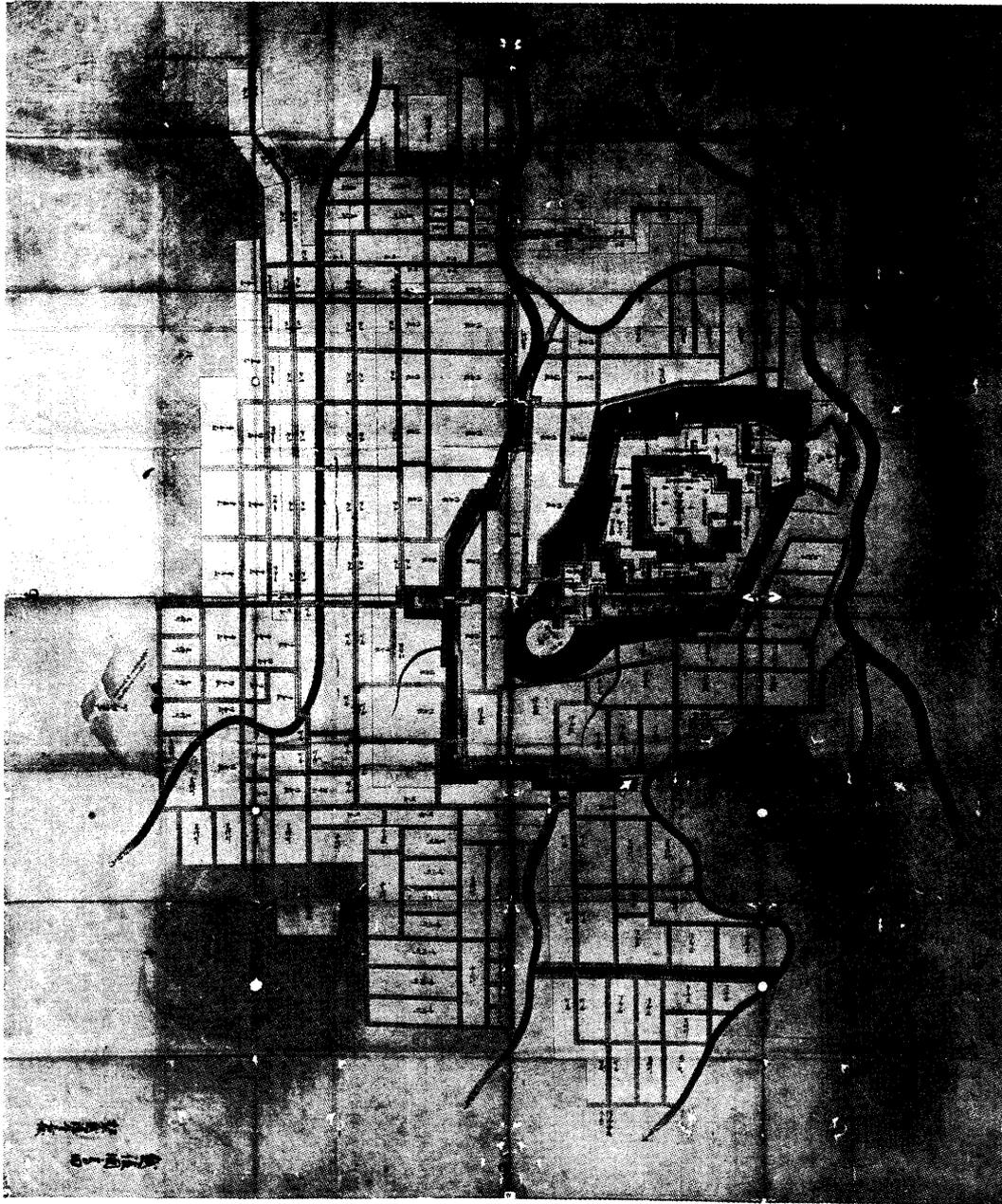


Fig.1 “Echigo-no-kuni Takada Jo Ezu” (“Shoho Shiro Ezu” of Takada, possession of the Joetu municipal library)

正保城絵図の最終提出年に関する考察

Table 1 The tendency as a administrator of “Daimyo” (feudal lord) in
 “Shoho Shiro Ezu”, after “ the third year of Joou ” (1654)

※ 凡例 (): 考察による。 ●: 没。 ▲: 致仕または隠居。 ■: 転封または除封。 寛: 『寛政重修諸家譜』。 近: 『近代諸城主次第』 (大類伸編『日本城郭史料集』、 1968人物往来社刊による)。					
	城名	正保城絵図の藩主名	正保城絵図の所蔵	藩主の動向	備考
畿内	大和郡山	本多内記(正勝)	国立公文書館	承応3 寛文11 ●	寛 卷第681 承応3年(1654)
	岸和田	岡部美濃守(宣勝)	"	寛文元 ▲	寛 卷第871 寛文元年(1661)
東海道	松坂	紀伊大納言(頼宣卿)	"	寛文7 ▲	近
	桑名	(松平摂津守定良)	"	承応3・6・22 明暦3 ●	近 明暦3年(1657)
	西尾	井伊兵部少輔(直好)	"	万治2 ■	寛 卷第761 万治2年(1659)
	田原	戸田主膳(忠昌)	"	寛文4 ■	寛 卷第906 戸田忠能なら正保4年没
	関宿	牧野佐渡守(親成)	"	明暦2 ■	寛 卷第367
	古河	土井遠江守(利隆)	"	万治元 ▲	寛 卷第297
	笠間	井上河内守(正利)	"	寛文9 ▲	寛 卷第241
東山道	岩村	丹羽式部少輔(氏定)	"	明暦3 ●	寛 卷第85 丹羽氏信なら正保3年没
	高遠	鳥居主膳正(忠春)	"	寛文3 ●	寛 卷第560
	上田	仙石越前守(政俊)	"	寛文9 ▲	寛 卷第306
	沼田	真田内記(信政)	"	万治元 ●	寛 卷第654
	烏山	堀美作守(親昌)	"	寛文12 ■	寛 卷第764
	棚倉	内藤豊前守(信照)	"	寛文5 ●	寛 卷第808
	白石	松平陸奥守(忠宗)	"	万治元 ●	寛 卷第762
	仙台	松平陸奥守(忠宗)	斎藤報恩会	万治元 ●	寛 卷第762
	盛岡	南部山城守(重直)	国立公文書館	寛文4 ●	寛 卷第210
	上山	土岐山城守(頼行)	"	延宝6 ▲	近 延宝6年(1678)
	本庄	六郷伊賀守(政勝)	"	延宝4 ▲	寛 卷第889
	秋田	佐竹修理大夫(義隆)	"	寛文11 ●	寛 卷第129
北陸道	高田	松平越後守(光長)	上越市立図書館	延宝9 ■	近
	長岡	牧野右馬允(忠成)	国立公文書館	承応3 ●	寛 卷第364
	新発田	溝口出雲守(宣直)	"	寛文12 ▲	寛 卷第140

城名	正保城絵図の藩主名	正保城絵図の所蔵	藩主の動向	備考	
山陰道	松江	松平出羽守(直政)	国立公文書館	承応3 寛文6	近
	津和野	亀井能登守(茲政)	"	延宝8	寛 卷第426
山陽道	津山	森内記(長継)	"	延宝2	寛 卷第126
	岡山	松平新太郎(光政)	"	寛文12	近
	備中松山	水谷伊勢守(勝隆)	"	寛文4	寛 卷第869
	福山	水野美作守(勝俊)	"	明暦元	近 明暦元年(1655)
南海道	新宮	水野淡路守(重良)	"	万治元	寛 卷第336
	大洲	加藤出羽守(泰興)	"	延宝2	水野淡路守:和歌山藩家老 寛 卷第774
西海道	小倉	小笠原右近太夫(忠真)	"	寛文7	寛 卷第188
	府内	日根野織部正(吉明)	"	明暦2	寛 卷第984
	臼杵	稲葉能登守(信通)	"	延宝元	寛 卷第606

して高田の延宝9年(1671)があげられる。

幕府の命令は、正保元年の12月²⁾のため、実質的には早い提出でも正保2年(1645)からの提出とみるべきである。城絵図には、年月日のみられる書き込みとしては、徳島の「正保三丙戌年十一月朔日」があげられる。

ところで、城絵図の調製については、国絵図とともに、およそ30項目からなる調製条項がだされる³⁾が、この条項の中には、年月や藩主などの記述についてのものはない。

従って、城絵図は、Table 1のように、年月や藩主の名を記す藩もあるが、年月に係わる記述のないものも存在することになったとみられる。

また、桑名では「桑名城中之惣堀共慶安三庚寅年九月洪水之節悉土砂押込瀬居成候」が、膳所では「以来ケ様ニ築出シ申度ヨリ申上候処」がみられ、城絵図の調製過程での状況や、計画予定の内容まで描き込んで提出している。

3. 藩の調製記録

控の城絵図では、萩の城絵図(山口県文書館蔵)に「萩御居城絵図慶安二年八月廿一日ニ井上筑後守(国絵図城絵図の幕府担当奉行)様江被差上候処ニ書付不足所有之ニ付如此調替慶安五年六月十九日ニ井上筑後守様江被指上候控(裏書)」がみられる。

また、高知の城絵図(高知市立市民図書館蔵)には「…慶安四年七月二五日ニ筑後守より被仰付絵図請取右之通書加候慶安五年正月ニ筑後守殿御上ケ被成候絵図之控也…(覚書)」とある。

下絵図では、犬山の城絵図(徳川林政史研究所蔵)に「正保四年亥ノ二月八日」がみられる。

藩の提出記録では、会津（正保3年8月）⁴⁾ 弘前（慶安元年）⁵⁾ 米沢（正保3年10月8日）⁶⁾ 富山（正保4年12月16日）⁷⁾ などがみられる。

また、城絵図の調製の係わる城や町の実測記録を記述した年月日に係わるものとして、盛岡（正保4年2月晦日）⁸⁾ 秋田（正保4年9月7日）⁹⁾ があげられる。

4. 幕府の調製記録

城絵図調製の動きは、正保元年の11月頃よりあり、『重訂御書籍来歴志・六』（国立公文書館蔵）には、「正保元年十一月諸州入旨アリテ国郡及ヒ諸城ノ図ヲ修撰命メラル井上筑後守重政奉行タリ別ニ賦役ヲ附セシム明暦中御庫ニ収ム」とある。

正式には、正保元年の12月に入ってから「同年（正保元年）十二月廿五日日本国郡之図同諸城之絵図可調進旨有上意経年数出来…」（前掲²⁾）とあるように、各大名に幕命として伝えられている。

幕府へ提出された城絵図は、従来、幾度か城絵図が全国的な企画で編集出版された機会があったものの¹⁰⁾、この幕府側の「明暦中御庫ニ収ム」をよりどころとして、一貫して「明暦中」という見解にとどまっている。

しかしながら、この「明暦中御庫ニ収ム」は、やや不明瞭な記述のため、従来から、疑問とする見解も連綿として後を絶たない¹¹⁾。

筆者もこの点については、調査を続けてきた。その中で、幕府の書物奉行である近藤守重による『楓山貴重書目』（国立公文書館蔵）の記述内容に、城絵図の最終提出年を考える上で、重要な内容を伝えている部分を見出した。

文化14年（1817）に近藤守重の書き記したこの『楓山貴重書目』は、紅葉山文庫などの幕府の書目の調査記録であるが、城絵図の調製を担当した井上筑後守が記述した内容をそのまま書き記している。同書目の「城国絵図」の項に「一 御文庫ニ有之候古帳面ニ左之通相認候一冊有之候則古国絵図御文庫江相納候節之目録と相見へ申候 外題国之絵図並城絵図之帳 末に 明暦二申年十二月廿七日 井上筑後守抑申ノ三月二日請取」を伝えている。

明暦という時代において、国絵図城絵図を記述するのは、正保元年の幕命による絵図の調製しか考えられず、しかも、正保度国絵図城絵図の幕府担当奉行の井上筑後守が、「抑申ノ三月二日請取」と目録帳に書き記している以上、正保の国絵図と城絵図は、明暦2年に全て出揃っていたとみるべきであろう。

「Table 1」の藩主の動向も、明暦2年3月26日府内（大分）で没した日根野織部正を含め、この「明暦2年3月2日」以前として矛盾は生じないといえる。

5. 結 言

幕府へ提出された正保城絵図の最終提出年を限定出来ることは、正保の国絵図と城絵図が一体として取り扱われ、一括して幕府の御文庫に保管し伝えられてきていることから、

正保国絵図の最終提出年を明暦2年と限定できることにもなるといえる。

正保の城絵図は、個々の城や城下町を描いた最古の絵図といえるもので、現在、国の重要文化財に指定されている。いうまでもなく、この正保城絵図の調製された江戸時代初頭は、近世における日本の城と城下町の建設計画が終了する時期にもあたる。実測図として国を上げての大事業であった、本考察で、国絵図と城絵図の調製年の下限が限定できた意味は大きいと言わざるを得ない。

謝辞

本論文は、正保城絵図の調製過程に関する研究の一部であり、文部省科学研究費補助金を受けた。記して感謝申し上げる次第である。

文献

- 1) 油浅耕三：流出した旧紅葉山文庫蔵会津・仙台・高田の正保城絵図についての一考察，日本建築学会計画系論文報告集，377，pp. 119-128，1987。
- 2) 『大猷公治世略記』（国立公文書館蔵）。
- 3) 『忠宗君記録引証記』（国立公文書館蔵）。
- 4) 『家世実紀』（会津若松市立会津図書館蔵）。
- 5) 『津軽一統志』（国立公文書館蔵）。
- 6) 『上杉家御年譜』（米沢市立図書館蔵）。
- 7) 『古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳』（金沢市立玉川図書館）。
- 8) 『南部旧話集』（国立公文書館蔵）。
- 9) 『秋田郡窪田城絵図帳』（秋田県立図書館蔵）。
- 10) 鳥羽正雄監：『日本城郭絵図集成』，日本城郭協会，1968。矢守一彦監：『名城絵図集成』，小学館，1986。ほか。
- 11) 川村忠博：『江戸幕府撰国絵図の研究』，古今書院，1984。で、同氏は、慶長度、寛永度、元禄度の国絵図の調製の期間に比して、明暦では調製期間が長いことをあげて疑問をもたれている。